「東京歯科大学千葉歯科医療センター医療連携講演会」開催のご案内

謹啓

立夏の候、ますますご清祥の段お喜び申し上げます。平素は当センターとの医療連携に多大なるご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、本年も**「東京歯科大学千葉歯科医療センター医療連携講演会」**を開催することとなりました。 講演内容は千葉県歯科医師会及び近隣歯科医師会代表の先生方からのご意見を頂戴し、決定いたしました。裏面をご参照下さい。

先生方におかれましては、ご多忙中のこととは存じますが、お知り合いの先生もお誘い合わせの上、ご出席賜りますようお願い申し上げます。

謹白

２０１９年5月吉日

東京歯科大学千葉歯科医療センター
センター長　一戸 達也
医療連携委員長　柴原 孝彦

記

日時･場所： **２０１９年7月４日（木）　受　付 １５：００～１５：３０**
講演会 １５：３０～１８：００
【会場】東京歯科大学　実習講義棟３階　歯科臨床研修医室
※ 演者・スタッフの服装につきましては、クールビズとさせていただきます。
※ 会場案内図は別紙 参加申し込み用紙(ＦＡＸ用紙)の裏面にございます。

協　　力： **千葉県歯科医師会　千葉市歯科医師会　習志野市歯科医師会　印旛郡市歯科医師会　市原市歯科医師会　八千代市歯科医師会　船橋歯科医師会　江戸川区歯科医師会**

会　　費： **無　料**

症例相談： 症例相談コーナーを設けています。症例相談をご希望の先生は、別紙 参加申し込み用紙 下覧に相談内容をご記入の上、ＦＡＸにてお申し込み下さい。ご相談の対応は当センター医療連携委員が担当いたします。当日は、資料（口腔内写真、X線写真、口腔模型等）をご持参下さい。なお、相談希望が多数の場合は、充分な対応ができないこともございますので、予めご了承下さいますようお願い申し上げます。

申込方法： 誠にお手数ではございますが、準備の都合上、別紙 **参加申し込み用紙**にご芳名等をご記入の上、**６月２７日（木）までにＦＡＸ**にてお申し込みの程お願い申し上げます。
※準備の都合上事前のお申し込みをお願いしておりますが、当日のご参加も受付けております。

〈問い合わせ先〉東京歯科大学千葉歯科医療センター 医療連携室
TEL 043-270-3279／FAX 043-279-2046

本講演会は公益社団法人日本歯科医師会生涯研修事業の単位認定となります。

講演内容

第１部　小児歯科診療を知る

座長：育成歯科系（矯正歯科）　　講　師　野嶋 邦彦

１．小児の時間軸と口腔内からの“Sign”　　15：35～16：15

演者：育成歯科系(小児歯科)　　助　教　荒井　亮

小児歯科の治療を複雑化している要素は大きく２つある。「成長という時間軸が存在すること」と「自覚症状が少なく、あってもうまく伝えられないということ」である。従って、診察や検査を行う際には時間軸を考慮することが必要であり、自覚症状の少ない、あるいはうまく伝わらない病態を把握するにはエックス線検査などによって現状を視覚化することが病気の早期発見と病態の重症化・複雑化の防止につながる。小児歯科の目的は正常な永久歯列を構築することであり、そのためにはその阻害因子を除去することが重要となる。本講演では自覚症状が少ない小児口腔内からの“Sign”を時間軸に合わせて治療を行うポイントについて考えていきたい。

２．「令和の子ども」への口腔機能の対応　　16：15～16：45

演者：専門歯科系(摂食嚥下リハビリテーション科)　准教授　大久保 真衣

小児の口腔機能への様々な対応のニーズが高まっているのを反映して、平成 30 年度診療報酬改定において「口腔機能発達不全症」と「小児在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料」が採用された。小児の口腔機能発達の過程は、今まで一度も獲得されていない機能を獲得していくことである。小児の口腔機能をどのように評価をするのか、そしてまだ獲得できていない機能をどのように獲得していくのか簡単にまとめて解説したい。さらに現代の医学の進歩を背景として、日常的な医療的ケアが必要な子どもの数は増加している。このような子どもたちに対して、地域に関わる歯科としてできることは何かを考えたい。歯科医師として令和の時代の子ども達に貢献できる、口腔機能に関する新たな概念をご理解いただければ幸いです。

質　疑

―――　**休　憩（ 10 分間 ）**　―――　　16：50～17：00

第２部　接着を知る

座長：一般歯科系(総合診療科)　　病院教授 髙橋 俊之

メタルフリークラウンの接着を知る

－CAD/CAM 冠・オールセラミッククラウンの臨床のポイント－　　17：00～17：50

演者：クラウンブリッジ補綴学講座　　教　授　佐藤　亨

最近、オールマイティーの歯冠修復として 30 年以上臨床使用されてきた陶材焼付鋳造冠に代わり，ガラスセラミッククラウンやジルコニアを使用したオールセラミッククラウン・ブリッジが日常臨床で使用されている。このオールセラミック修復は、ガラス材料とその鋳造技術の進歩、ジルコニア材料と CAD/CAM 技法の進歩発展により臨床応用が可能となった。

またこの CAD/CAM 技術を使用して、2014 年にハイブリッドレジンの CAD/CAM 冠が小臼歯のクラウンに適応され、保険診療で審美歯冠修復、メタルフリー修復が可能となった。また 2018 年４月からは大臼歯のクラウンにも適応された。この CAD/CAM 冠の臨床術式は、従来の歯冠修復法とは全く異なるものと考える必要がある。

そこで今回の講演では、CAD/CAM 冠臨床、オールセラミックスクラウン臨床について、装着法である接着を中心にお話しする。

質　疑